



## くじゅう坊ガツル湿原一帯における環境保全活動

くじゅう坊ガツル湿原は、大分県西部に位置し、周囲を九重連山に囲まれた高原性湿原(約53ヘクタール)です。

当社は、坊ガツル湿原の保全及びその一帯に生息する希少植物の保護のため、環境省や竹田市、九重の自然を守る会など、地域の方々との協働により、長年途絶えていた野焼き活動を2000年に再開しました。現在は、九電みらい財団(2016年5月設立)が中心となり、野焼き活動のほか、外来種駆除活動や隣接する平治岳(当社社有地)のミヤマキリシマ植生保護活動などの環境保全活動を行っています。

なお、当該湿原は、多様な地質・地形を反映した希少な生態系を有することから、2005年に、国際的に重要な湿地の保全を目的とする「ラムサール条約」に登録されています。

九電みらい財団のホームページは [こちら](http://www.kyuden-mirai.or.jp)  
(www.kyuden-mirai.or.jp)

### 野焼き活動

かん木や雑草が生い茂ることを防ぎ、植物の新しい芽立ちを促すことで、湿原の環境を維持する野焼き活動を実施しています。

野焼き時の周囲への延焼を防ぐ防火帯を準備する「輪地切り」と「輪地焼き」を毎年8月から9月にかけて実施し、翌年3月に湿原全体に火をつける「本焼き(野焼き)」を行います。

2017年度は、地域の方々や九電グループ社員と家族など、のべ345名のボランティアの方々に参加いただきました。



防火帯を準備するための輪地切りの様子



湿原全体が炎に覆われる本焼き(野焼き)の様子

### 活動の充実に向けた取組み

九電みらい財団では、野焼き活動の指導者が今後不足するおそれがあるため、2016年度から九電グループ社員を対象に野焼き活動の担い手となるリーダーの養成研修を行っています。この研修は、活動の経緯や安全講習などの座学と草刈機の扱い方などの実技指導で構成されており、2017年度は約20名の九電グループ社員が受講しました。



草刈機の使用方法を実技指導



安全意識を高める安全講習会の様子

#### 私の環境アクション



宮崎支社 企画・総務部  
総務・地域共生グループ  
にしもと かずき  
西本 和樹

#### ずっと先まで、坊ガツルを守り続けたい

私は山登りが趣味で、くじゅうへの登山を通じて坊ガツル湿原の美しさを感じてきました。坊ガツル湿原における野焼き活動を知り、湿原維持に貢献したいという思いから、2016年度から活動に参加し、2017年度には「坊ガツル野焼きリーダー養成研修」も受講しました。

宮崎からの参加は大変ですが、いざ活動に参加してみると、これまで活動を続けてきた先輩方や、関係者の皆さまの長年の取り組みによって、坊ガツル湿

原が守られていることを実感しました。

今後も、ずっと先まで坊ガツル湿原の美しさを守り続けられるよう、地道に活動に参加していきたいと考えています。

また、現在私は、当社主催の環境教育活動やボランティア活動の企画運営を担当していますが、坊ガツル野焼き活動で得たノウハウや心構えを、担当業務にも活かしていきたいと思っています。

## ミヤマキリシマの保護、登山道整備活動

高山植物「ミヤマキリシマ」(大分県準絶滅危惧種)の  
 植生に支障となる木(ノリウツギ等)を伐採し、希少種を  
 保全するための活動を実施しています。

また、山の草花が踏み荒らされたりしないよう登山道  
 の整備も行っています。

2017年度は、4月と11月に実施し、九電グループ社員  
 やOBを含む184名のボランティアの方々に参加いた  
 だきました。



支障木の伐採



登山道の整備

## 坊ガツルリーフレットの制作・配布

従来に加え、ラムサール条約で求められている  
 「保全」と「活用」の観点から、登山道入口への外来植物の  
 種子の持ち込みを防ぐマットを設置したほか、湿原を守  
 るためのルール、周辺のガイドマップや四季の花々など  
 を掲載したリーフレットの制作・配布を行っています。



外来植物の種子除去マット



リーフレット

## 生物多様性の保全

生物多様性に配慮しつつ九州の豊かな自然を守り続けていくため、社有林や発電所緑地の適切な管理や、九州で絶滅が危惧される身近な動植物を保護するための取組みを推進しています。

## 社有林等の適正管理

当社は、水力発電の安定した水源確保を目的として、阿蘇・くじゅう国立公園区域内を中心に4,447ヘクタールの社有林を適切に維持管理し、水源涵養<sup>かんよう</sup>やCO<sub>2</sub>の吸収など、森林の持つ公益的機能の維持・向上に努めています。2005年3月には、適正な森林管理が行われていることを認証するFSC(森林管理協議会)の「森林管理認証<sup>\*</sup>」を、国内の電力会社で初めて取得しました。

社有林のスギ材の一部については、新国立競技場オリンピックスタジアムのスタンド観客席を覆う大屋根の木材として供給しています。

※森林管理協議会(FSC、本部ドイツ)が、環境に配慮した森林管理に対して発行する認証

## 【社有林によるCO<sub>2</sub>吸収固定】

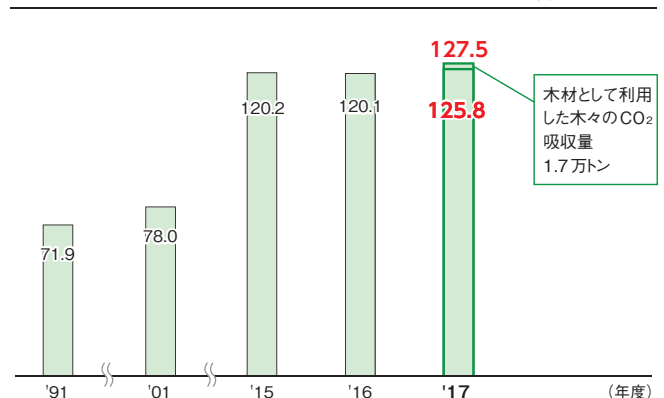
社有林により吸収固定されるCO<sub>2</sub>は、木材として利用するために伐採された木々が吸収しているCO<sub>2</sub>量1.7万トン<sup>\*</sup>を差し引いても、社有林全体で125.8万トンと算定しています。



社有林(山下池周辺[大分県由布市])

## ■ 社有林によるCO<sub>2</sub>吸収固定量

単位: 万トン-CO<sub>2</sub>



(注1) 森林調査に基づく実測値から日本国温室効果ガスインベントリ算定方法に基づき算定  
 (注2) '01年度までのCO<sub>2</sub>吸収量には樹齢15年以下の若木分は含まない

## 「くじゅう九電の森」における生物多様性調査の実施(九州林産株)

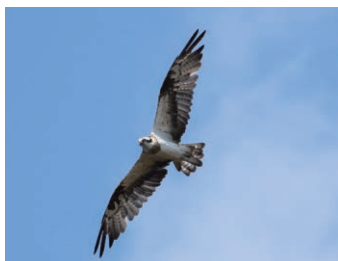
グループ会社の九州林産株では、九電みらい財団が環境教育活動を実施している大分県由布市(山下池周辺)の「くじゅう九電の森\*」が、より生物多様性に富んだ環境となることを目指し、その環境づくりに向けた現地調査に着手しました。(※内容はP51に記載)

現地調査では、専門家を招き、多様な生物が集まる環境づくりへのアドバイスをいただきました。また、その中で大分県の準絶滅危惧種に指定されているツマグロキチョウ\*<sup>1</sup>やミサゴ\*<sup>2</sup>などの多様な生物を確認しています。

四季を通じた生物多様性調査を実施し、その結果を指標にすることで、取り組み成果の見える化を図っています。



ツマグロキチョウ



ミサゴ



現地調査の様子

※1:ツマグロキチョウ:シロチョウ科の昆虫で、河川敷や堤防の草地などに生息。従来は普遍的な種とされていたが、河川の改修工事などで、個体数が急激に減少しており、全国的に絶滅が危惧されている

※2:ミサゴ:タカ科の鳥類で、海岸、河口、湖沼などに生息、大木の樹上や岩や崖の上で営巣する。餌となる魚類の化学的な汚染により、世界的に個体数が減少している

## 指定管理者施設における生物多様性調査の実施(九州林産株)

グループ会社の九州林産株は、福岡市から同市西区の「かなたけの里公園」の管理者に指定されており、同公園で日本野鳥の会福岡支部と協働し、野鳥を中心としたモニタリング調査を実施しています。

開花植物や動物、昆虫などの調査もあわせて実施しており、2017年度は、12回の調査で、サメビタキ(スズメの仲間)をはじめ、敷地内では初めて見つかった2種を含む計62種の野鳥、136種の開花植物を確認しました。

また、公園内の湿地や水路で、福岡県の絶滅危惧Ⅱ類に指定されているニホンアカガエルの産卵が確認されており、卵塊の調査と保全活動を実施しています。2017年度は、349の卵塊を確認しています。



イカルチドリアオバズク

(畑の糸に絡まっているところをスタッフに助けられました。)



ニホンアカガエルの卵塊

## 次世代へのエネルギー・環境教育

次世代を対象とした、エネルギー・環境への関心を育む活動を、九州各地で実施しています。



詳細は [九州電力](#)

▶ 関連・詳細情報 (P1参照) ▶ 九電みらいの学校

### 「くじゅう九電の森」(大分県由布市)での環境教育

当社では、水力発電に必要な水を安定的に確保するために、水源涵養林を管理しています。この広大な水源涵養林の中に位置する山下池(大分県由布市)の豊かな自然環境を活用し、九電みらい財団とグループ会社の九州林産(株)が連携しながら、体験型の環境教育を行っています。2017年度は24回実施し、1,280名にご参加いただきました。

この環境教育では、子どもたちの環境保全意識を啓発し、将来の九州の環境保全につなげることを目的として、地球温暖化の現状や森の役割などを学ぶ座学と、「林業体験」「森林観察」「木工教室」などの体験学習を組み合わせたプログラムを実施しています。



詳細は [九州電力](#)

▶ 関連・詳細情報 (P1参照) ▶ 「くじゅう九電の森」とは



緊張しながらの林業体験



大自然の中での森林観察



固い木に苦戦しながらの木工教室

### 小・中学校等での出前授業

エネルギー・環境問題などについて、楽しみながら学んでもらうことを目的に、九州各地で出前授業を実施しています。

2017年度は、小・中学校等で529回の出前授業を実施し、約16,000名の子どもたちとエネルギーや環境について考えました。



児童のみなさん興味津々の出前授業



驚きの連続となった川内原子力発電所見学会

#### 私の環境アクション



人吉営業所  
営業グループ

かみき や ゆみこ  
上木屋 由美子

#### 「出前授業」の成果!?

球磨郡山江村立山田小学校は、2015年度からエネルギー教育モデル校に指定されており、5、6年生対象の出前授業を申し込まれました。

私にとって出前授業は2回目の経験で、テキストや実験道具の準備、前回失敗したタイムスケジュール確認のほか、正しい情報を伝えるために自主勉強も念入りに行いました。

当日、子ども達は熱心に話を聞きながら、積極的に

発言もしてくれました。発電のしくみの実験にも興味津々で、45分間2回の授業はあっという間に楽しく終わりました。

また、川内原子力発電所見学会も実施し、学習のまとめとして5年生の2人が作成した「かべ新聞」は、資源エネルギー庁主催のコンテストで見事「特別賞」を受賞!少しはお役に立てたようです。

## エコ・マザーによる環境教育支援

子どもたちへの環境教育支援と保護者の皆さまへの環境情報の提供を目的とする「エコ・マザー活動」に取り組んでいます。

この活動では、九州各地で地域のお母さま方が「エコ・マザー」として保育園などを訪問し、環境紙芝居の読み聞かせ等を行い、小さなお子さまに環境への配慮の大切さを伝えています。

2017年度は、200回、およそ16,000名のお子さまや保護者の皆さまにご参加いただきました。

なお、これまでの15年間で、計3,600回以上実施し、約25万名の皆さまにご参加いただいています。



環境の大切さを伝えるエコ・マザー活動



詳細は [九州電力](#)

▶ 関連・詳細情報 (P1参照) ▶ エコ・マザー活動

## 環境教育促進事業(仮称)

一般財団法人九州環境管理協会と当社による共同事業として、福岡市科学館で子どもたちに環境の大切さを学んでもらう講座や実験のほか、一般の方々にはエアコンの適正運転など、電気の使用側で温室効果ガスの排出抑制を働きかける講演会などを計画しています。

## きゅうでんプレイフォレストを九州各地で開催

子どもたちの森を大切にすることを育むため、九州各地で体験型の環境イベント『きゅうでんプレイフォレスト』を2016年度から実施しており、2017年度は開催頻度を増やし、九州各地の森に展開しました。

イベントでは、各地の環境団体や企業の皆さまと共に森の中に準備したブースで、「マイ箸づくり」、「ネイチャーゲーム」、「丸太切り」などを、家族で楽しみながら体験していただきました。

### 活動実績(2017年度)

地区	開催日	会場	来場者数
北九州	2017年10月1日(日)	山田緑地(北九州市)	807人
	2018年3月11日(日)	筑豊緑地(飯塚市)	729人
福岡	2017年5月21日(日)	夜須高原記念の森(筑前町)	622人
佐賀	2018年3月21日(水・祝)	北山少年自然の家(佐賀市)	373人
	2018年3月25日(日)	佐賀県立森林公園(佐賀市)	756人
長崎	2017年7月9日(日)	平成新山ネイチャーセンター(島原市)	151人
	2017年11月19日(日)	ながさき県民の森(長崎市・西海市)	413人
熊本	2017年10月7日(土)	四季の里旭志(菊池市)	513人
	2018年3月17日(土)	人吉クラフトパーク(人吉市)	340人
宮崎	2017年5月14日(日)	法華嶽公園(国富町)	610人
	2017年11月23日(木・祝)	同上	543人
鹿児島	2017年12月2日(土)	鹿児島県民の森(始良市・霧島市)	280人
	2017年12月3日(日)	同上	480人
合計(13回)			6,617人



ヒノキの間伐材を使ったマイ箸づくり



草木や生き物に触れワクワクしながらのネイチャーゲーム



大きなノコギリを使っの丸太切り

## 環境月間における取り組みなど

毎年6月の1か月間を「環境月間」と定め、九州各地で様々な行事を実施しています。社員一人ひとりが「ずっと先まで明るくしたい。」をブランドメッセージとする九電グループの思いのもと、各職場で地域のお客さまとのコミュニケーションを大切に環境活動に取り組みました。

2017年度は、耳川水系での稚魚放流や、発電所構内での芋掘り(苗付け)など、地域との協働による取り組みを、強化・拡充して実施しました。



詳細は [九州電力](#)

▶ 関連・詳細情報(P1参照) ▶ 環境月間

## 地域の方々との協働による活動

自治体等主催の清掃活動や花植栽への参加、環境イベントへの出展など、九電グループ一体となって、地域とともに取り組む活動を103事業所で実施しました。



園児のみなさんとの花植栽(熊本東配電事業所)



地域の皆さまと協働による海岸清掃活動(川内発電所)

## 次世代への環境教育等

地域の園児や小学生等を対象に、環境やエネルギーに関する出前授業、芋掘り(苗付け)や鮎の稚魚放流体験など、次世代への環境教育を21事業所で実施しました。



土まみれになつての芋の苗付け(刈田発電所)



大きくなるのが楽しみな稚魚放流体験(耳川水力整備事務所)



ゴーヤとあさがおのグリーンカーテン設置(中村学園大学附属あさひ幼稚園)

### 私の環境アクション



学校法人高城学園  
 萩田みどり幼稚園 園長  
 たかじょう しんたろう  
 高城 慎太郎 様

### さつまいもの収穫体験

幼稚園では、食育の一環として、園で野菜の苗付けからそれらを食すまでを活動の中に取り入れています。昨年度、九州電力さんにお声掛け頂き、6月にさつまいもの苗付け、9月には草取り、そして10月に収穫を体験させて頂きました。

「大きくなーれ」と願いを込め苗付けを行い、いよいよ収穫の時、みんな「一番大きな芋をとるぞ」と意気込んでいました。時折出てくる虫にも大騒ぎしながら、土の中から出てくるたくさん芋に大きな声で「お芋

とれたよー」と素敵な笑顔を見せてくれました。

収穫を体験し、子どもたちは食べ物の大切さを知り、何気なく言っていた「いただきます」がこれからは心を込めて言えることなのでしょう。さらには色々なことに感謝の気持ちを持つことが出来ると思います。

今後も活動を続けていき、自然の大切さ、命の大事さ等を子どもたちに伝えていきたいと思っています。



## 省エネ講座・環境講演会

お客さまを対象として、電気を大切に使うための省エネ講座などを48事業所で実施しました。  
また、鹿児島・大分・北九州支社において、地域のお客さまに環境への関心を持っていただく「環境講演会」を実施しました。

支社	鹿児島	大分	北九州
実施日	2017年6月5日(月)※環境の日	2017年6月11日(日)	2017年6月18日(日)
参加者	122名	85名	70名
内容	「どうなる暮らしのエネルギー ～電気代、自由化、温暖化～」 講師：NPO法人国際環境経済研究所 理事・主席研究員 竹内純子氏	「地球と家計に優しい省エネ実践術 ～日常にプラス!エコライフ～」 講師：NPO法人エコ診断ネットワー クジャパン 理事長 藤原洋記氏	「今日からできるご家庭における 省エネルギー」 講師：NPO法人エコ診断ネットワー クジャパン 理事長 藤原洋記氏
	「鹿児島における二酸化炭素排出量 削減への森林・木材の貢献」 講師：鹿児島大学農学部 教授 寺岡行雄氏	「節約エコクッキング」 講師：シニア野菜ソムリエ、 アスリートフードマイスター 坂本君枝氏	「気候が変動!?(へん! どう?)」 講師：RKB毎日放送 アナウンス部 副部長 龍山康朗氏



お客さまを対象とした環境講演会(鹿児島支社)



節約エコクッキング(大分支社)

## 緑ふれあい運動(九州林産株)

グループ会社の九州林産株では、九州各所にある事業所で、それぞれ地元の養護施設等へフラワーボックスの寄贈を行っています。創立60周年を記念に始まったこの取組みも9年目を迎え、2017年度は、計26の施設へ寄贈を行い、地域のみなさまとふれあう良い機会となりました。



寄贈用プランターの作成



北九州営業所の社員による寄贈



林業部(湯布院町)の社員による寄贈